

比布町ふるさと通信
2017年号

ぴ び



びっぶスキー場に センターハウス「スキップ」がオープン

スキップして
出かけよう♪



平成28年12月1日、びっぶスキー場にセンターハウス「スキップ」がオープンしました。

建設総工費は約4億円。総床面積は約700㎡、鉄筋コンクリートの平屋建て。室内には総合案内のほか、レストランや休憩所、売店、キッズルームなどを備えています。

「スキップ」という愛称は一般公募により、122点の中から選ばれました。「スキー」と「びっぶ」を合わせた「スキップ」。スキーを楽しむ

みに来たお客さんの心がワクワクと弾む様子をイメージしています。

びっぶスキー場は昭和41年、当時の久保田信次郎町長が私財を投じて、現在のスキー場内の一部の山林を購入したことに始まり、開発が進められました。

平成2年、現在ある9コースが全て完成。5年には来場者数、リフト収入ともに盛況を迎え、リフト乗り場には長蛇の列ができました。

その後、経済状況の変化からスキー人口が減少したものの、近年は家族向けの料金プランやサービスを充実したことで、びっぶスキー場を訪れる人が増えつつあります。

「新しいスキップは、広くて暖かいよ」と笑顔を見せるのは比布町立中央小学校3年の丸谷一颯くん。比布スキー少年団に所属し、毎週末、びっぶスキー場に通っています。

「スキーはすごく楽しい。いつも、おにぎりを持って行って『豚汁』と一緒に食べるんだ。練習後の『あげた焼き』もすごくおいしいよ。」

身近にあるびっぶスキー場。スキー場で経験したことは、大人になっても、きつと忘れることはないでしょう。

びっぶスキー場を通じて育まれる郷土愛は、いつまでも変わることなく、ふるさと比布町への思いとして、未来へとつながっていきます。



スキー×びっぶ
びっぶスキー場センターハウス「スキップ」



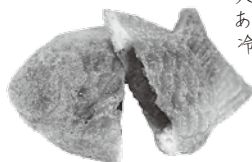
小さなお子さんが遊べるキッズルーム



ゲレンデを眺めながら、ゆるりゆるりのんびりできるよ♪



スキー大会で健闘する
スキー少年団員



大人気の
あげたい焼き！
冷えた体を温めます。

僕たちの
オススメ!



スキー少年団の
大石陽斗くんと丸谷一颯くん（写真右）

まちのできごと Town News

2016.3-2017.2

比布駅が
新しくなりました!



平成28年3月13日

旭川比布同郷会が総会を開催

3月15日

新しい比布駅舎がオープン

4月1日

比布駅交流スペースにピピカフェ
比布駅がオープン
とっておき濃厚たまごかけごはん
セットが販売開始

4月29日

荒尾孝司さんが藍綬褒章を受章

5月4日

菅野優斗さんが第10回津軽三味線
決定戦で日本一に輝く

5月9日

比布中学校3年生が修学旅行で東
京都を訪問。東京比布会役員らと
交流会を開催

6月25日

東京比布会が総会を開催

7月10日

札幌比布会が総会を開催

7月24日

久保田夏生さんが第79回全日本ペン
書道展覧会硬筆の部で大賞を受賞

ふるさと会から

各会では会員を募集しています。各連絡先または比布町役場総務企画課広報係へお気軽にご連絡ください。



平成28年3月13日に開催された総会には会員104人が出席。久しぶりに会う友人らと近況などを報告し合い、楽しいひとときを過ごしました。

旭川比布同郷会

- 会長 合田春夫さん
- 会員 約350人
- 総会費 毎年3月中旬ごろ
- 会費 5,000円程度
- 連絡先 今野浩安さん ☎0166-61-4492



平成28年7月10日に総会を開催。会員94人が出席し、特産品販売が行われたほか、中学校の校歌を合唱し、ふるさとを懐かしみました。

札幌比布会

- 会長 橋本芳枝さん
- 会員 約400人
- 総会費 毎年7月上旬ごろ
- 会費 5,000円程度
- 連絡先 大谷知彰さん ☎011-772-2804



平成28年6月25日に開催した総会には会員59人が出席。比布産米の試食が行われ、ふるさとの味を楽しみながら、思い出話に花を咲かせました。

東京比布会

- 会長 牧野 正さん
- 会員 約350人
- 総会費 毎年6月下旬ごろ
- 会費 8,000円程度
- 連絡先 深瀬和昭さん ☎0485-54-6765



開発に携わった大熊勝幸さんと荒尾一之さん

平成28年3月、比布町に新しい特産品が誕生しました。その名は「北海道比布町のおき濃厚たまごかけごはんセット」。大熊養鶏場のブランド卵「かつばの健卵」と上川農業試験場で開発された北海道米の最高峰「ゆめぴりか」、さらに2年かけて育て、厳冬期に収穫される小ねぎを使った「ぴっぷ小ねぎ醤油」をセットにした「たまごかけごはんセット」です。この商品を開発したのは、町教育

北海道比布町のおき濃厚たまごかけごはんセット

誕生しました!

委員会が主催したまちづくりリーダー育成プロジェクト事業の参加者です。商工業をテーマに開かれた講座の中で、「年間を通じて町をPRできる特産品が少ない」という意見から、地域に根付く新たな特産品開発が始まりました。商品には米と卵を使うことが決まったものの、その加工方法に頭を悩ませた参加者たち。そこで、講座の講師を務めていた旭川大学経済学部江口尚文教授から学んだ「イノベーション（新結合）」という手法を用いて、現存する商品を組み合わせ、新たな商品を作り出すことにたどり着き、素材の味をそのまま味わえる「たまごかけごはん」を商品にすることにしました。調味料の醤油は研究の末、小ねぎ「旬の彩り。」を炒めて混ぜ込み、ね

ふるさと納税は「ふるさとチョイス」で



インターネットで検索

ふるさとチョイス 比布町

ふるさと納税で比布町を応援してください!

全国どこにいても、ふるさとチョイスのサイトから「ふるさと納税」ができます。クレジット決済もでき、大変便利です。金額に応じて、お米やたまごかけごはんセットなどの返礼品が選べます。

ぎの風味が最大限に生かされた味わい深い醤油ができあがりました。卵、米、醤油とすべて地元産のものを使ったたまごかけごはんセットは、全国的にも例がありません。一粒一粒が美しいお米に、濃厚卵と香り高いねぎ醤油をたらしとかければおぼると、やみつきになりますよ。

9月4日

比布駅グラウンドオープン

澁谷興二さんが育てたカボチャがシンデレラ夢パンクコンテストでグランプリ賞を受賞(24.46キ)

10月25日

比布町老人クラブ連合会が設立50周年記念式典を開催

11月1日

旧蘭留小学校校舎を活用した24時間会員制スポーツジムがオープン

11月3日

比布剣道連盟が全日本剣道連盟少年剣道教育奨励賞を受賞

11月13日

ロンドン五輪卓球女子銀メダリストの平野早矢香さんが君の夢プロジェクトで来町。比布中卓球部に実技指導

12月1日

ぴっぷスキー場にセンターハウス「スキップ」がオープン

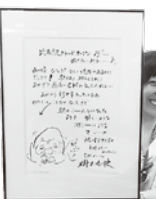
平成29年2月11日

ぴっぷスキー場ジンギス感謝デーを開催



たまごかけごはんは、比布駅内ピカフェ比布駅で食べられますよ!

ピカフェ比布駅店長 亀海夏子さん



歴史を訪ねて

びつぶスキー場50年の軌跡

昭和41年、当時の久保田信次郎町長が私財を投じて、山林約800haを購入。民間会社からジェットリフトを借り上げ、翌42年に「比布沢国際スキー場」を開設した。

昭和42年、札幌の冬季オリンピック（47年）をひかえ、スキー熱が高まり始めた当時、7線の比布沢に「比布沢国際スキー場」が開設されました。

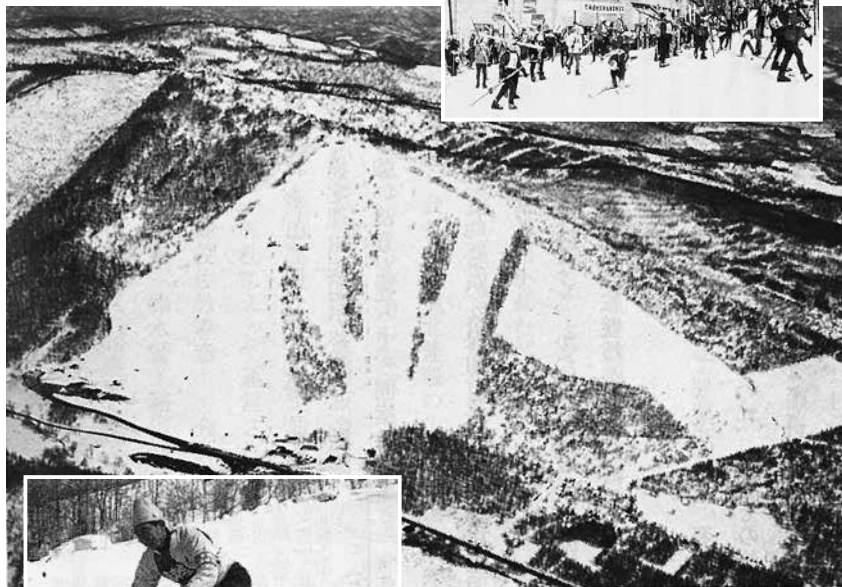
同年10月から、比布振興公社が運営の主体となり、「比布北嶺国際スキー場」としてオープンしたが、採算性を危ぶむ声が大きくなり、町議会で公社の経営改善などを協議した結果、47年4月、「ほくれい国際スキー場」の運営が町に移管。以後、町の事業として用地拡大や周辺施設の整備が進められることとなった。

55年に「ほくれいロッジ」を建設。宿泊、食堂を備え、年々増加するスキーヤーに対応し、その後のスキー場の発展を支えた。59年には名称を「びつぶスキー場」に改め、同年に第5ペアリフト、平成元年には、第6ペアリフトを新設し、輸送力と安全性が向上。

2年に現在ある9つのコースが全て完成。25年の時をかけて久保田町長が始めたわずか80年だったスキー場が104haへと拡大。本町は「スキーのまち」へと成長した。

（参考・比布町史）

スキー客でにぎわうほくれいロッジ



第1回ジャイアントスラローム大会のようす（昭和42年3月開催）

発行・編集

ふるさと通信『ぴび』平成29年3月1日発行(通巻第17号)

■発行 比布町

■編集 総務企画課広報係

〒078-0392 北海道上川郡比布町北町1丁目2番1号

☎0166-85-2111(代表) 0166-85-4802(総務企画課直通)

□ホームページ <http://www.town.pippu.hokkaido.jp>

□Eメール ichigo@town.pippu.hokkaido.jp



町民スキー・スノーボード教室

まちの人口

総数 3,819人

男 1,800人

女 2,019人

世帯数 1,822世帯

■平成29年1月末日現在
住民基本台帳等登録数

比布町ふるさと通信「ぴび」は、比布を離れた人と比布を結ぶ情報紙です。

みなさまから、町外で暮らしているご家族やご友人へお届けください。